

『都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育』

東京女子医科大学・杏林大学・帝京大学・駒澤大学



ニュースレター 平成27年度5号

各大学コーディネーターからのあいさつ ～第3回～

いよいよがんプロ最終年度を迎えます！



東京女子医科大学
化学療法・緩和ケア科
教授

林 和彦

われわれ4大学のがんプロ事業も、いよいよ最終年度を迎えます。東京都では、がん患者の生活環境や要望は大きく異なる上に急速に高齢化が進行し、急性期から在宅医療までの地域がん医療連携の効率化が急務となっていますが、地域がん医療を担う能力を持つ医師や看護師、技師等は極めて不足しています。東京女子医科大学では、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランのもと、帝京大学、杏林大学、駒澤大学とともに、大学院教育そしてインテンシブな卒後教育を通じて、都市型がん医療のコーディネータとなりうる、優秀な医療者を養成してまいりました。昨年度にはこれまでの活動を振り返り、改めて都市型がん医療とは何かを問うべく、グループ校と共同で1000名を超える患者さんにアンケート調査を行い、現在解析中ですが、得られた結果を随時各施設のがん医療の質の向上に反映していく所存です。また、質の高いがん医療の実践のためには、患者そして国民の皆様のがん医療の理解が不可欠ですが、各大学は公開講座や学校におけるがん教育によって、地域のがん医療の啓発活動を開始し、その輪が年々大きく広がっております。本事業では今年度も4大学の総力を結集し、患者・家族の視点に立ちながら、質・量ともに多様化する都市型がん地域医療を担うことのできる次世代のがん医療人リーダーを養成いたします。

杏林大学医学研究科の取り組み

本事業の目的は「高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進する」ことにあります。我々のグループは、東京という大都市を背景にもつ医学部が中心となっており、「都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」をテーマに、各大学のコーディネーターが中心となり、大学院に設置する養成コースの円滑な連携・推進事業を進めています。

本学では平成25年4月より新たに放射線腫瘍学講座を設置しました。がんに特化した講座を設置する事により、大学院教育のみならず、学部生を対象としたがん教育を広げ、切れ目のない教育を行うとともに大学内のがん教育に対する体制強化を目指しています。同時に、医学研究科へ「都市型地域医療専門医養成コース」と「臨床試験研究者養成コース」を設置しました。また、医療従事者を対象とした、短期間に幅広い専門領域を学べる「臨床試験コーディネーター養成コース」を開講し、多くの方ががん治療、がん薬物療法、臨床試験に関する知識を習得するため受講しています。

平成26年3月には「東京都における都市型がん治療を考える」をテーマに連携大学と合同で市民公開シンポジウムを開催し、最新のがん治療戦略と都市型がん診療の医療連携について多くの市民の方にご参加いただき、本事業を知っていただけるよい機会となりました。

また、平成27年より「都市に生活するがん患者における充実したサバイバーシップの実現に向けた調査研究」アンケート調査を開始し、東京女子医科大学340件、杏林大学252件、帝京大学379件、連携3校合計971件のアンケートを回収致しました。来年度学会での発表を目指し、解析を進めてまいります。ご協力いただきました皆様にご心よりお礼申し上げます。

がんプロ事業も残すところ1年となりましたが、今後も引き続きがん専門医療人の養成に取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様の更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。



杏林大学
腫瘍内科学
教授

古瀬 純司

「多職種チーム医療における意見の違い・対立をどのように調整するか ～より良い意思決定支援を目指して～」を開催して

東京女子医科大学・弥生記念講堂にて2016年2月6日(土) 13:00～16:30に開催しました。医療は高度化・複雑化し、患者様・ご家族の安心・安全な医療を求めることや、質の高い医療を求める意識も高まってきています。特に、がん医療の発展は目覚しく、多岐にわたる治療の選択肢やケアの方針を巡って、さまざまな意見の違いや対立が交錯することが少なくありません。更に、医療専門職による「チーム医療」は重要なテーマになっており、多様な職種が協働・連携することが求められます。しかし、受けてきた教育背景も役割も異なる人たちが、意見交換をするため、価値観の対立が生じることが少なくありません。十分な論議が交わされることは大変望ましいのですが、感情的な意見のぶつかり合いになるとチームでの成果が挙げられず、中にはスタッフが疲弊してしまう場合もあります。

このような状況において、意見の違いや対立をどのように調整したら良いのかを考えることをテーマとしました。まずは、「信念対立解明アプローチ」を開発された京極真先生から、その基本的な考え方や実際の内容をご講演いただきました。シンポジウムでは、意見の相違がある事例を提示し、内出容子先生(リエゾン医師)、渡邊直美先生(がん看護専門看護師)、村本ゆう子先生(医療ソーシャルワーカー)より、それぞれの立場から事例へのアプローチをご発表いただきました。その後の全体討議では、信念対立解明アプローチにおける介入について討議し、スタッフ間や患者・家族間での情報の差が生じている場合の、介入方法について討議しました。また、コミュニケーションにおける配慮と遠慮の違いも論議され、配慮をもってコミュニケーションをとることの重要性も検討されました。

寒さが残る季節でしたが、91名の方がご参加くださいました。アンケートには、「信念対立の認識がもてれば、コミュニケーションを円滑にできる方法を探れると感じた」「職業によりいろいろなアプローチの仕方があり勉強になりました、とても楽しいシンポジウムでした」などのご意見をいただきました。本公開シンポジウムにご参加くださりました皆様、ご協力くださいました関係者の皆様に深謝いたします。

(がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン看護学部運営委員長 飯岡由紀子)



—がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン—
連携大学合同公開シンポジウム

多職種チーム医療における 意見の違い・対立を どのように調整するか

～より良い意思決定支援を目指して～

がん医療の現場では、しばしば治療やケアの方針を巡ってさまざまな意見の違いや対立が交錯します。このような意見の違いや対立をどのように捉えて調整したら良いのかを共に考えたいと思います。シンポジウムでは事例を通してそれぞれの立場からの報告をしていただきます。

医療に従事する多職種の方を対象とした内容ですが、ご興味のある方などでもご参加いただけます。多くの方のご参加をお待ちしております。

コミュニケーションにおける信念対立の調整：信念対立解明アプローチの基礎と実際

講演者：京極 真 (吉備国際大学大学院保健科学研究科・准教授)

Ph.D., 作業療法士、説明員見習い、吉備国際大学准教授。著書は『医療関係者のためのトラブル対応術』『信念対立解明アプローチ入門』『医療関係者のための信念対立解明アプローチ』など。『看護』『医文』『看護』『山崎』で「信念対立解明アプローチ」の月刊連載中。

事例を通じたシンポジウム

シンポジスト：内出容子 (東京女子医科大学神経精神科助教) リエゾン医師
渡邊直美 (東京女子医科大学看護師) がん看護専門看護師
村本ゆう子 (東京女子医科大学) ソーシャルワーカー

座長：飯岡由紀子 (東京女子医科大学 看護学部成人看護学 教授)
中島恵美子 (杏林大学 保健学部看護学科成人看護学 教授)

日時：2016年2月6日(土) 13:00～16:30

場所：東京女子医科大学 弥生記念講堂 〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

参加費無料
申込不要

問い合わせ先：東京女子医科大学 がんプロ事務局 top-g4.bm@twmu.ac.jp
主催：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
東京女子医科大学・杏林大学・南京大学・駒澤大学



「がんになっても困らない暮らし方のヒント」をテーマとして

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン看護学部運営委員長 飯岡由紀子

2016年2月27日に東京女子医科大学看護学部第6回公開講座が開催されました。本年度の公開講座は、がんプロ共催となり、『がんになっても困らない暮らし方のヒント』をテーマとして行いました。東京女子医科大学看護学部成人看護学飯岡由紀子から「心配になることと心構え」をテーマとして、がんの発症率やがんに関連する要因、がんの治療法、療養生活の概要、がん予防などについて話しました。がんと診断されたときのこころの変化や、治療中の療養生活（副作用とのつきあい方など）、がん情報の集め方、がんに関する相談支援などについても説明をしました。東京女子医科大学病院医療ソーシャルワーカーの村本ゆう子様からは、「療養生活を支える支援」をテーマとして、医療費負担を軽減する制度（工学医療費など）、生活費などの助成や給付（障害年金など）、生活の支援（介護保険など）、主に経済的な支援に関するご講演をいただきました。

新聞記事を見て参加された方も多く、「とても役に立つお話でした」「家族ががんになって、もっと早くお話を聞いていれば良かった」などのご意見をいただきました。更に、がんプロ事業の一環として作成した「がんになる前から手に取るガイド」を配り、がんに関する理解を深めていただけるようにしました。市民の方たちとともに「がん」について共に学ぶ機会となりました。




東京女子医科大学看護学部公開講座小委員会主催
第6回 公開講座

がんになっても困らない 暮らし方のヒント

プログラム
心配になることと心構え
東京女子医科大学看護学部 成人看護学教授
飯岡 由紀子 先生

療養生活を支える支援
東京女子医科大学病院 医療ソーシャルワーカー
村本 ゆう子 先生

平成28年
2/27
土曜日
10:00 ~ 12:00
(開場・受付 9:30 ~)
 東京女子医科大学
 看護学部 第1校舎
 123教室

参加無料
 事前予約不要

【お問い合わせ】
 東京女子医科大学 看護学部 学務課
 Tel. 03-3357-4804 (内線6151・6152)
 〒162-8666 新宿区河田町8-1

【共催】
TOP  Tokyo Oncology Professional
都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育

【アクセス】
 ●大江戸線「牛込柳町駅」西口より徒歩約7分
 ●大江戸線「牛込柳町」西口



平成 28 年度の取り組み

第4回合同カンファレンスの企画

医療問題について院生が企画するカンファレンスを開催予定

連携4大学合同市民公開シンポジウム

平成28年9月24日(土) 13:00～16:00

東京女子医科大学弥生記念講堂

看護系連携3大学合同市民シンポジウム

平成28年9月24日(土) 13:30～16:00

帝京大学板橋キャンパス臨床大講堂

4大学5年間の合同成果報告会

子どもたちへのサポートプログラム

多職種合同カンファレンス

放射線治療の合同カンファレンス

第3回 東京女子医科大学

第4回 杏林大学

第5回 帝京大学

第6回 東京女子医科大学

登録・問い合わせ先

 東京女子医科大学 がんプロ事務局 TEL 03-3357-4889 MAIL top-g4.bm@twmu.ac.jp	 帝京大学 事務部 教務課 がんプロ担当 TEL 03-3964-1211(代表)(内線42122) MAIL ganpro@med.teikyo-u.ac.jp
 杏林大学 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局 TEL 0422-47-5512(内線3211) MAIL ganpro@ks.kyorin-u.ac.jp	 駒澤大学 教務部研究推進課研究推進係 TEL 03-3418-9125 MAIL ken-suishin@komazawa-u.ac.jp

 本事業の最新情報はホームページに掲載、「TOP-G4」で検索